

第 6 回関東大学春季大会 実施要項

1. 主催 関東ラグビーフットボール協会

2. 目的 大学ラグビーの競技力向上を目的に、春・秋 2 シーズン制の公式戦にすることで、年間を通じた強化を目指す。

また関東大学対抗戦とリーグ戦の交流や、招待試合や各地フェスティバルなどに組み込むことで、学生にラグビー精神を周知するとともに地域普及をも図る。

3. 大会実施日

<リーグ戦> 平成 29 年 4 月 23 日(日) ～6 月 18 日(日)

<対抗戦選抜ーリーグ戦選抜：オールスター戦> 平成 29 年 6 月 25 日(日)

4. 場所 各チームグラウンド、その他公共競技場

5. 出場チーム 対抗戦 A、リーグ戦 1 部、対抗戦 B 1 位、リーグ戦 2 部 1 位 計 18 チーム

A グループ：対抗戦 A・リーグ戦 1 部 前年度秋季戦の各 1～3 位

B グループ：対抗戦 A・リーグ戦 1 部 前年度秋季戦の各 4～6 位

C グループ：対抗戦 A・リーグ戦 1 部 各 7・8 位扱い、対抗戦 B・リーグ戦 2 部各 1 位扱い

※秋季リーグの結果、入替が生じた場合は、その結果を反映する。

6. 参加資格

①単一大学の組織規程上正規の学生であり、大学院生の場合は 26 歳以下であること。但し、研究生、科目等履修生、聴講生、研修生は含まれない。

②チームのメンバーは、所属チームを通じ競技者個人登録をしていること。

③外国籍の選手は、当該年度の 4 月までに正規学生として入学し、その後、継続的に日本に居住し、部員として練習その他の活動を共にしていること。なお、本大会においては、(公財)日本ラグビーフットボール協会「チーム登録等に関する規程」第 1 4 条の規定にかかわらず、同条(2)「日本国の義務教育の修了者であって、引き続き日本国に在住している者」に該当する場合であっても、外国人選手として扱うものとする。

④競技区域内にいるプレーヤーの内、外国人選手は 2 名までとする。但しリザーブ選手に人数制限は設けない。

7. 競技方法

<対戦方式>各グループ内で総当たり戦を行う。

A	リ 1	リ 2	リ 3
対 1			
対 2			
対 3			

B	リ 4	リ 5	リ 6
対 4			
対 5			
対 6			

C	リ 7	リ 8	リ② 1
対 7			
対 8			
対 B 1			

<順位決定>

- ①順位の設定に当たり、勝ち点制を採用し、全試合終了時点で、勝ち点の多い順に順位決定を行う。
- ②勝ち 5 点、負け 0 点、引き分け 2 点とする。
- ③またボーナス点として、以下の勝ち点を与える。
 - 1)勝敗に関係なく、4 トライ以上獲得したチームに、勝ち点 1 を追加
 - 2)負けても 7 点差以内ならば、勝ち点 1 を追加
- ④全試合終了時点で勝ち点と同じ場合、次の各号により順位を決定する。但し、3 チーム以上が並び、各号において 2 チームが並んだ場合は、並んだ 2 チームについてそれぞれ次号により決定する。
 - 1)全試合の得失点差の多いチーム
 - 2)全試合でのトライ数が多いチーム
 - 3)全試合でのコンバージョンゴール数の多いチーム
 - 4)当該チームでの抽選

8. 競技規則

- ①2016 年度WR 制定の競技規則による。
- ②試合時間は 40 分ハーフとし、ハーフタイムは 12 分以内とする。

9. 表彰

- ①A・B・C 各グループの優勝チーム
- ②ベストマナー賞：試合内外の態度、応援マナー、競技規則遵守の観点より別紙書式にて監督推薦

10. 罰則

<カードの適用について>

- ① 累積は、前年 9 月より持ち越す。但し高校時の分は含まない。
- ② 大会期間中、一時的退出(イエローカード)の累積 3 回目の宣告をされた場合、同一試合 2 回目でない限りその時点で退場とはならないが、最低でも次の 1 試合には出場できない。当該試合終了後、関東協会規律委員会にて状況確認を行い裁定する。
- ③ 退場を命じられたプレーヤーについては、最低でも次の 1 試合には出場できない。当該試合終了後、関東協会規律委員会にて状況確認を行い正式に裁定する。

<カード適用時の外国人選手の起用について>

外国人選手にカードが適用された場合、外国人枠は以下の通りとする。

- ① 退場となった場合、競技区域内人数のうち 2 名まで入れる。
- ② 一時的退出となった場合、一時的退出中の人員(競技区域内人数に含まれる) も含め 2 名まで。

11. 運営に関する諸事項

- ①レフリーと第 3 アシスタントレフリー(リザーブレフェリー)は関東協会が指名するが、タッチジャッジについては両チームで担当すること。

- ② 原則マッチコミッショナーを関東協会より派遣する。
- ③ 原則マッチドクターはチームドクターに依頼する。
- ④ テクニカルゾーンとマッチコミッショナー席を設置する。
- ⑤ 当番チームは対戦カード表、左側のチームとする。
- ⑥ キックオフ 1 時間前にプレマッチミーティングを試合会場内にて開催する。参加者はマッチコミッショナー、レフリー、監督(または準ずる者)、チームメディカルスタッフ、主務とする。
- ⑦ 出場メンバーを、キックオフ 48 時間前までに関東協会と対戦チームに送付すること。変更は原則プレマッチミーティングまでとする。なお、変更の際は必ず相手チームに連絡し了承を得ること。直前の試合でけがをするなど、変更を余儀なくされた場合は、相手チーム・レフリー・マッチコミッショナー全員に連絡すること。
- ⑧ 当番チームは、試合後 30 分を目途に事前に送られた所定の記録用紙を関東協会まで FAX すること。
- ⑨ 原則としてチームのファーストジャージを着用し、同色または類似して見分けにくい場合は、双方の話し合いによって決める。
- ⑩ 試合球は、スズキスポーツ・セプターより提供されるボールを当番チームへ支給。
- ⑪ アフターマッチファンクションの有無はチーム間で調整のこと。
但し関東協会からの補助金はないものとする。

<テクニカルゾーンについて>

- ① テクニカルゾーンは、ハーフウェイラインより左右対称となる位置に、タッチラインから 2m 以上離れ、かつハーフウェイラインから 5m の地点から始まるのが望ましいが、各会場の状況に応じてイコールコンディションになるよう設置する。広さは 10m×3m 以内とする。
- ② テクニカルゾーン内に入れるのはチームドクター、セーフティーアシスタント、トレーナーなどメディカルスタッフ 2 名以内と給水係 3 名以内とする。
- ③ 上記スタッフは通信機を付けることはできるが、戦術上の指示・連絡を行ってはならない。
- ④ メディカルスタッフは、タッチライン沿いで待機することが出来るが同一チームのスタッフが同じサイドにいてはならない。
- ⑤ 給水係はキック係を兼任し、テクニカルゾーン内で待機しなければならない。ペナルティーの際は給水できない。
- ⑥ メディカルスタッフ・給水係と監督・ヘッドコーチの兼任はできない。
- ⑦ テクニカルゾーン内での治療行為はできない。
- ⑧ テクニカルゾーンの運用に関して違反行為がある場合、マッチオフィシャルやマッチコミッショナーから注意を与えられることがあり、程度によっては退場させられることもある。

<地震・雷等の荒天時における試合成立条件>

雷、地震等で実施不能となった場合、大学委員会で取り扱いを決定する。また中断した場合は以下の基準で対応する。

- ① 前半が終了していれば成立とみなし、中断時の得点を結果とする。
- ② 前半途中で中断した場合、レフリーと両チームで話し合い、後日再試合となった場合は、中断時点の得点は考慮されず、改めて行う。再試合が不可能の場合は成立とする。